（様式１－１）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立大牟田特別支援学校　　ＮＯ１

学校教育目標	持てる力を最大限に発揮し、 主体的にかつ個性豊かに社会へ自立していく児童生徒の育成	重点目標	「生活する力」を身に付けていく児童生徒の育成 －「考える」「伝える」「生活に生かす」力を育む授業づくり－

	評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に対する評価	授業改善の日常化	・個別の指導計画に基づく指導の充実	・個別の課題を基に学びの連続性を大切にし、「何を学ぶか」を明確にした全児童生徒の個別の指導計画の作成と実施・評価・改善に基づく教育課程の展開（教育課程評価 3.3）	4	○児童生徒の実態を把握して、個別の指導計画を毎学期作成し、見直しをしながら、目標達成に向けて実施・評価・改善を行った。 ○学習指導案作成の際、児童生徒の的確な実態把握に基づき、手立ての具体化を指示、指導したことで、授業改善が見られるようになってきた。 ○ICT 機器を使用する際、担当者が相談窓口となることで、ICT を活用した学習が充実してきた。 ○見通しを持たせる活動を行うことで学習意欲を持続させるようにしたり、振り返りで自己の成長を実感させたりする授業づくりができるようになってきた。	A	・学校の評価は適切である。 ・児童生徒の実態に合わせて、様々な工夫をしながら授業を行っていた。 ・時代の要請から、ICT 活用能力の育成も必要になってきている。児童生徒の実態に応じた学習に取り組んでほしい。 ・児童生徒が、しっかり授業に取り組んでいる様子を見ることができた。これまでに、就労につながる授業（作業学習）を見学できた。	・重点目標である「生活する力」を身に付けた児童生徒について個々のめざす姿を設定・共有し、常に意識した指導を行う。 ・重点目標の副題「考える」「伝える」「生活に生かす」力を育むための場面を設定する。 ・日常的な授業において、単元を見通し、一単位時間のねらいを明確にした授業づくりを行う。
		・活動や操作を通して主体的に考えることができる授業づくりや、ICT 担当者を中心とした ICT を活用した学習環境整備の推進	・考える場面や表現する活動を位置づけた授業改善、ICT を効果的に活用した学習づくり（教育課程評価 3.3）	3		A		
		・学習のねらいが明確で「わかった、できた」を実感させる授業づくり	・学習のねらいに応じためあての提示とまとめ、会話や対話、生活と関係づけた場面の設定（教育課程評価 3.3）	4		A		
	交流及び共同学習の推進	・「思いやり・いたわり・優しさ」を育てる学習の充実	・学校間交流・居住地校交流・地域交流・市民交流などの交流及び共同学習の積極的な設定と、ＥＳＤで重視する能力や態度の育成（教育課程評価 3.3）	4	○天の原小、宮原中、有明高専との交流を学期に１回実施した。居住地校交流も積極的に実施し、コミュニケーション力や協力する態度を育んだ。 ○市民交流として、市内各所で作品展示を行った。（aurea、ともだちや美術館、ゆめタウン販売　等） ○救急車見学や助産師による性に関する学習、市の出前講座で押し花を作成等行った。ＧＴ招聘の際は、事前の打合せをし、連携・協働に努めている。 ○交流の際は、児童生徒がお互い理解しあい楽しめる内容になるよう打合せをしている。 ○新潟の見附特支と作品交流を継続実施している。	A	・学校の評価は適切である。 ・宮原中（１年生）とは、対面による交流を行っているが、新潟の見附特別支援学校とも、これまで以外の方法を使って交流を考えてはどうだろうか。 ・交流についてもっと発信してもよいと思う。 ・縦割り活動や、多様な人間関係の形成も図ってあった。 ・先生方の場づくりや声かけなど、見学させていただき、温かく優しい心もちになった。	・交流及び共同学習における教科等のねらいを達成するための活動内容や形態等の工夫を行う。 ・教科等のねらいの達成も含む地域のひと・もの・ことの開発を行う。 ・充実した学校間交流のために、必要に応じて、本校職員における小・中学校へ向けての事前学習を実施し、互いにとって効果的な交流活動を行う。
		・地域のひと・もの・ことを活かした学習の充実	・地域の消防や市役所職員等によるゲストティーチャーの招聘と連携・協働（教育課程評価 3）	3		A		
		・「つながり」を大切にした計画的、組織的な学校間交流、居住地校交流の充実	・学校間による事前打合せの実施と、次回の交流につながる事後指導(メッセージや作品交流等)（教育課程評価 3）	3		A		
	専門性とセンター的機能の向上	・障害の状態、特性に応じた指導の工夫	・教材教具交流会や、講師を招聘した事例研修会、体の動き研修会、校内特別支援教育研修会を通した理論研究と実践（教育課程評価 3.2）	3	○講師招聘研修会（性教育・スクールカウンセラー研修）、体の動き研修会、校内の研修会について予定通り実施することができた。支援部より積極的な情報提供も行われている。 ○帝京大学の教授やりんどう学園等の専門家を招聘したり、リハビリ見学を行ったりして専門性の向上を図った。 △全職員が情報を共有する機会の設定 ○特別支援教育だよりや学校の HP で情報発信をしている。支援部スタッフを中心に、情報提供や関係機関との情報共有ができている。	A	・学校の評価は適切である。 ・情報共有については、多くの教職員を抱えていることを考えれば、文字だけで伝わる情報共有と、そうでないものを分けるなど、内容に応じて使い分けていくことも大切ではないか。オンライン、アプリの利用についても検討してみてはどうか。 ・障害の特性についての新年度引継ぎや情報共有を丁寧に行ってほしい。 ・特性と支援の在り方、環境の整え方、保護者支援など特別支援教育をいろいろな場で広めてほしい。	・特別支援教育に係る専門性の向上を図るため、職員のニーズに応じた研修を実施する。 ・外部の専門家から学んだことを可視化し、校内で共有するための環境設定（場・時間）を行う。 ・校務分掌の見直しを図るとともに、ICT 等を活用した職員間の情報共有及び情報発信に努める。
		・外部専門家の活用	・作業療法士や理学療法士等の専門家を招聘した研修会やリハビリ見学を通した連携（教育課程評価 2.9）	3		A		
		・教育・就学相談と幼稚園・保育園、小・中学校への情報提供や情報共有の推進	・定期的な「特別支援学校だより　あゆみ」の発行と、支援部スタッフを中心とした教育相談や巡回相談の実施、関係機関との情報共有（教育課程評価 3.1）	3		A		
いじめ防止	いじめの早期発見と早期対応	・人権教育の目標を踏まえた道徳教育の推進	・教育活動全体を通した道徳教育の推進、人権に関する研修の実施（教育課程評価 3.1）	3	○道徳教育については、教育活動全体を通して随時行っている。 △道徳科の授業は個人差もあり難しい。 ○人権に関する研修については、人権レポートの作成や発表・外部研修会への参加など計画的に実施した。 ○高等部では、毎月いじめアンケートを実施している。小・中学部では、日常観察や連絡帳を通して情報収集及び保護者との連携に努めた。	A	・学校の評価は適切である。 ・言葉の出ない子どもの見取りを丁寧に行ってほしい。 ・いつも温かい声かけや励ましがあり、子どもたちが自信を持つよう心がけてあった。	・教育活動全体を通した道徳教育をもとに、道徳科の授業については児童生徒の実態に応じて取り組める部分から実施する。 ・いじめの未然防止に努め、安全・安心な風土の醸成、自己存在感を持たせる活動を設定したり、自己決定の場を提供したりする。
		・いじめの早期発見、早期対応の充実	・校内支援委員会・日常観察・アンケート・教育相談を通した情報の収集と早期対応、保護者との連携（教育課程評価 3）	4		A		
不登校対策	家庭・関係機関等との連携協力	・ふくおかアクション３の実施 スクールカウンセラー、関係機関の活用	・不登校傾向、不登校児童生徒の減少（昨年度比）	3	○児童生徒が欠席した際は、担任が必ず保護者へ連絡している。 ○毎月、全学部通信を発行し、学校での取組や児童生徒の様子を伝えている。SC や SSW には継続的に生徒の悩みに寄り添っていただき、対応の仕方を関係職員で共有している。	A	・学校の評価は適切である。 ・学級単位で懇談できる場を増やしてほしい。 ・悩みを持つ児童生徒に対して、ＳＣやＳＳＷの活用は大切だと思う。	・ＳＣの積極的活用とともにＳＳＷの活用を推進する等、関係機関との連携に努める。 ・関係機関と連携しながら児童生徒の実態把握に努め、最適な支援方法を考えて実施する。
		・個別の教育支援計画等を活用した家庭との連携、協力 ・家庭と連携した基本的生活習慣の育成	・懇談会、情報交換会等を通した家庭・関係機関等と児童生徒の教育的ニーズや支援方法の共通理解（教育課程評価 3.2）	3		A		
働き方改革	教職員の適正な勤務と業務改善	・週に１回，定時退校日に向け効率的な業務調整の実施	・会議等の効率的な見直しによる学級事務の時間の確保。水曜日を定時退校日とする。	3	△定時退校の設定は行ったが実施は難しい。 △勤務日の 20 時までの退校については、半数以上の職員が実施できているものの、時期によって難しいこともある。 ○長期休業中の学校閉庁日の設定は 100%実施できた。	A	・学校の評価は適切である。 ・なるべく早く帰ることができるよう、工夫を続けてほしい。	・会議資料のペーパーレス化とともに ICT を活用した校務運営を推進する。 ・校務分掌や校務の見直しをすすめ、仕事の平準化を図る。
		・勤務日は２０時までの退校	・１日９割以上の職員が実施	3		A		
		・長期休業に６日の閉庁日の設定	・完全実施	4		A		

◇　評価について　【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである

（様式１－２）

令和６年度　学校評価報告書

大牟田市立大牟田特別支援学校　　ＮＯ２

評価計画						自己評価		学校関係者評価		改善計画
	領域		評価の観点		評価指標（①取組指標または②成果指標）	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
総括的評価	教育課程 学習指導	○	年間指導計画の充実	①	学習指導要領に基づいた年間指導計画の見直し（年１回）	3	○　年間１回の年間指導計画の見直しを実施し、改善点についても共通理解することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・今後も、児童生徒一人一人の実態を把握し、改善を進めてほしい。 ・児童生徒の実態把握や変化をしっかり捉えることが大切だと思う。	・学部内の協議を通して、学習や活動内容等を適時振り返り、授業の質と量の管理を図る。
		○	教育課程の質的管理	②	個別の指導計画の活用 （教育課程評価 3.3）	4	○　個別の指導計画を作成、実施、評価、改善するとともに授業改善に努めることができた。	A		・個別の指導計画については、児童生徒の実態を十分把握し、長期目標を設定する。また、管理職等による指導助言を継続する。
	進路指導	○	個別の教育支援計画を有効に活用した進路指導	②	児童生徒一人一人の夢や願い、保護者の想いを大切にした進路指導の実施 （教育課程評価 3.2）	4	○　懇談会や進路相談会など一人一人のニーズに応じた進路指導を行った。 ○　関係機関との情報交換会を年２回行い、主体的進路選択できるように連携を深めた。	A	・学校の評価は適切である。 ・労働支援については、労働人口が減少する中で、関係機関と連携して取組を推進してはどうか。 ・これからも関係機関や事業所等と情報交換を丁寧に行って、児童生徒の進路指導をすすめてほしい。	・生徒や保護者に対し、進路先についての情報提供に努め、よりニーズに応じた進路指導を行う。
		○	主体的に社会と係わる力の育成	②	関係機関との連携及び支援体制の充実 （教育課程評価 2.8）	3		A		・主体的に進路選択ができるように様々な関係機関との連携を図り、支援体制を適宜見直す。
	生徒指導	○	基本的生活習慣の育成	②	家庭との連携と継続的指導の実施 （教育課程評価 3.5）	4	○　できるだけ自分ができることには取組むようにさせ、見守ったり支援を少しずつ減らしたりした。 ○　家庭と連絡帳や電話等で連携し、小さな変化にも気付けるようにし、随時教育相談を行った。 ○　研修会の実施により、対応の仕方を共通理解し、危機管理意識を持つことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・今後も、好ましい人間関係の醸成及び規範意識の育成に努めてほしい。 ・即座に対応するためには、情報共有、様々な訓練を継続して行うことは重要である。	・家庭や放課後等デイサービス等関係機関と連携することで、基本的生活習慣の育成を図る。 ・今後も、児童生徒や保護者の細かい変化を見逃さず、適切な対応を行う。 ・今後も、職員、保護者と情報共有しながら、常に児童生徒の様子を観察し安心安全な学校生活を送ることができるようにする。
		○	好ましい人間関係の醸成及び規範意識の育成	②	教育相談の日常的展開 （教育課程評価 2.9）	3		A		
		○	危機管理意識を持った学級経営	②	児童生徒の所在確認、発作等への迅速な対応（教育課程評価 3.5）	4		A		
	保健管理	○	救急措置や救急看護の充実	②	養護教諭・看護師等との連携及び怪我や病気等の迅速な対応（教育課程評価 3.6）	4	○　常時ＰＨＳで繋がるようにし、緊急時は、児童生徒「個別の緊急対応マニュアル」等を基に対応している。 ○　食後の歯磨きや朝の時間で体力作りをしたり、給食指導や学級活動等を通して疾病等の予防に努めたりした。	A	・学校の評価は適切である。 ・消防や医療機関との連携した救急措置の訓練については、引き続き行う必要があると思う。 ・児童生徒がしっかり運動に取り組んでいる。	・今後も、救急措置について、職員一人一人が対応できるように研修会を行い、共通理解を図る。 ・学校や家庭でできる疾病や伝染病の予防についての情報を年間を通して収集し、周知、実践していく。
		○	疾病や伝染病予防の充実	②	体の清潔（入浴、歯磨き等）や健康な生活（食事、運動等）を身に付けるための継続的指導（教育課程評価 3.5）	4		A		
	安全管理	○	安全指導の徹底	①	児童生徒の実態や災害形態に応じた避難訓練の実施（年３回）	4	○　災害形態に応じて避難場所を設定するとともに、避難経路の確認や事前指導を徹底し、安全に実施（年３回）することができた。 ○　毎月の安全点検を確実に実施するとともに、改善事項については迅速に対応した。 △　危機管理マニュアルに関する研修会の内容を工夫する必要がある。（引き渡し手順等）	A	・学校の評価は適切である。 ・危機管理マニュアルの「引き渡し」については、通学区域が広範囲のため、保護者等へ確実に引き渡すまでの流れが大切である。 ・災害はいつ起こるか分からないので、避難訓練は引き続き必要である。	・児童生徒の実態に応じて、避難訓練の内容を毎年見直す。
		○	安全管理のための施設設備の充実	①	毎月の安全点検の確実な実施及び改善事項についての迅速な対応（月１回）	4		A		・報告された改善事項については、今後も継続して、迅速な対応を徹底する。 ・危機管理マニュアルを見直し、周知・徹底するための研修会の在り方を工夫する。
		○	危機管理マニュアルの徹底	①	危機管理マニュアルに関する共通理解の場の設定。（年２回）	3		A		
	特別支援教育	○	個別の教育支援計画の充実	②	個別の教育支援計画の作成と実施・評価・改善（１００％）	4	○　保護者や関係機関と連携し、全児童生徒の個別の教育支援計画を作成しＰＤＣＡサイクルに基づき実施・評価・改善を行った。 ○　全児童生徒の個別の指導計画を作成しＰＤＣＡサイクルに基づき実施・評価・改善を行うことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・児童生徒の実態をしっかり把握し、保護者と共通理解を図って進めることが大切だと思う。 ・引き継ぎを確実に実施してほしい。	・教務主任を中心に評価・改善の具体的な指導を行う。
		○	個別の指導計画の充実	②	個別の指導計画の作成と実施・評価・改善（１００％）	4		A		・教務主任を中心に評価・改善の具体的な指導を行う。
	組織運営	○	校務分掌組織の機能化	①	校務分掌部会の実施（月１回）	3	○　月１回の校務分掌部会を実施することができた。 △　部会への参加意識を高めるために、部会の持ち方の工夫が必要である。 ○　部会や提出書類の確認、教室訪問等を通して、適宜指導助言をした。	A	・学校の評価は適切である。 ・今後も人材育成を続けてほしい。 ・様々な機会を利用して人材育成に取り組んでほしい。	・校務分掌を見直し、仕事内容を整理し、適切な人員及び人数を配置する。
		○	人材育成	①	教頭、主幹教諭による主任、主事、担当者への指導助言（適宜）	4		A		・今後も継続して、書類提出や教室訪問の際に指導助言する。
	研　　修	○	校内研修の充実	①	校内新任研修会及び特別支援教育研修会の計画的実施（１３回以上）	4	○　本校の実態に応じて、校内特別支援教育研修会を年１３回以上実施することができた。 ○　県教育センター研や授業研究会の参加を積極的に呼びかけたことで参加者が増えた。	A	・学校の評価は適切である。 ・専門性向上のための研修を充実させることは大切である。職員全体で学び合って専門性を向上してほしい。	・今後も継続して、校内特別支援教育研修会の内容を職員のニーズに合わせて見直す。
		○	校外研修の充実	①	校外研修会への参加奨励（前年度比較）	4		A		・職員の専門性を向上させるために、キャリアに応じて計画的に研修させる。
	教育目標 学校評価	○	重点目標の達成状況	①	重点目標における評価と改善　（年２回）	4	○　教育課程等評価を毎学期実施して、重点目標の評価と改善を行った。 ○　年３回学校関係者評価委員会を実施して、学校評価を行った。	A	・学校の評価は適切である。 ・今後も、重点目標の達成に努めてほしい。 ・児童生徒が学習に取り組む様子を見学することができた。児童生徒の成長する様子がよく分かった。	・校内研究及び授業研究会においても、重点目標の評価と改善を行う。
		○	学校評価状況	①	学校関係者評価委員会の実施　（年３回）	4		A		・評価委員の方々へ学校教育活動が分かりやすいような資料提示を行う。
	情報提供	○	地域や保護者等に向けた教育活動の情報発信	①	Ｍボード（週１回程度）及び特別支援学校便り「あゆみ」の発行（学期１回）	3	○　Ｍボード平均週１回以上更新及び「あゆみ」学期１回の発行を通して、教育活動情報を十分に発信することができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・今後も定期的に情報を発信してほしい。	・Ｍボードやメール配信システムを通して、日々の教育活動を平均週１回以上発信する。
	保護者・ 地域との 連携	○	保護者との連携	②	懇談会や進路相談会の実施 （教育課程評価 3.2）	4	○　連絡帳や懇談会、進路相談会等を通して、学習や生活の様子、進路情報を提供し情報共有した。 ５月・２月の情報交換会等を通して、児童生徒の実態について共通理解を図り、支援体制の強化に努めた。	A	・学校の評価は適切である。 ・地域との連携について、地域の方との交流を工夫してみたらどうか。	・今後も継続して、連絡帳、電話連絡などを通して、保護者との日々の情報交換を綿密に行う。
		○	地域との連携	②	関係機関等との情報交換会の実施 （教育課程評価 3.2）	3		A		・児童生徒の支援内容や方法について情報を共有し、支援体制の充実を図る。
	教育環境 整備	○	校舎内の環境整備の充実	②	子どもの活動の様子が伝わる掲示物の掲示（教育課程評価 3.3）	4	○　行事ごとの子どもの写真や感想を掲示して、活動の様子が伝わるようにした。 ○　月一回の安全点検と連動して、環境整備や遊具の安全点検を行うことができた。	A	・学校の評価は適切である。 ・子ども一人一人を大切にした、色彩豊かな季節感あふれた掲示に努めてあった。（年間通して）	・今後も継続して、子どもの活動の様子や内容が伝わるように掲示の仕方を工夫する。
		○	校舎外の環境整備の充実	①	花壇や中庭等の整備及び遊具等の安全点検の実施（月１回）	4		A		・月１回の安全点検や毎日の校内巡視を継続して行い、けがや事故のないように努める。

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである